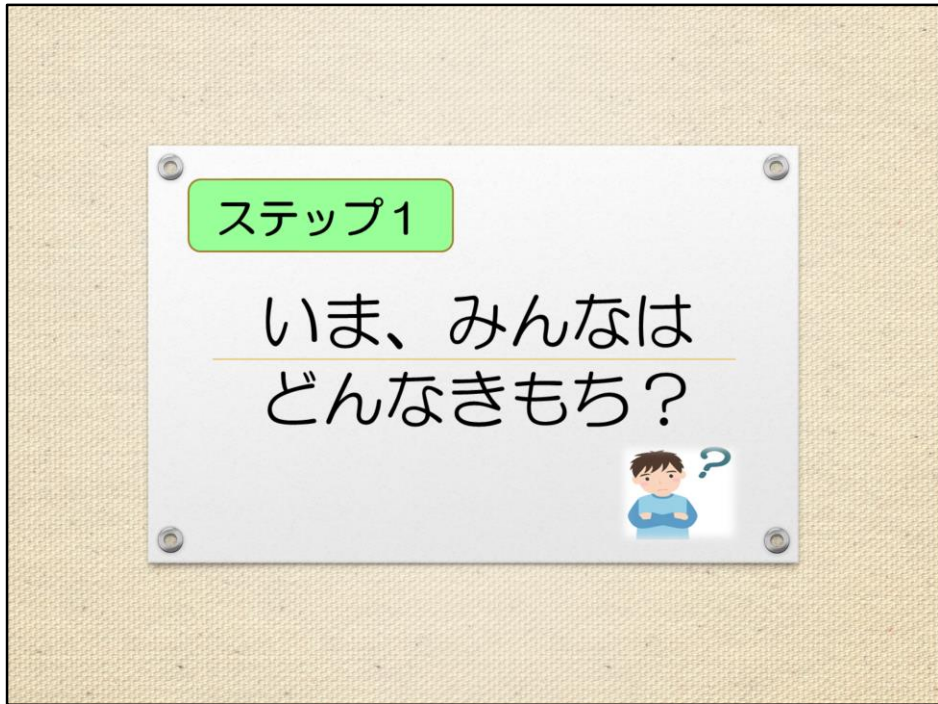


コロナいじめ防止教材（下学年用）【実施時間】20分程度

【ねらい】子どもたちが、新型コロナウイルス感染症についての悪口や嫌がらせ等をしないようにするために、何ができるか自分ごととして考える。

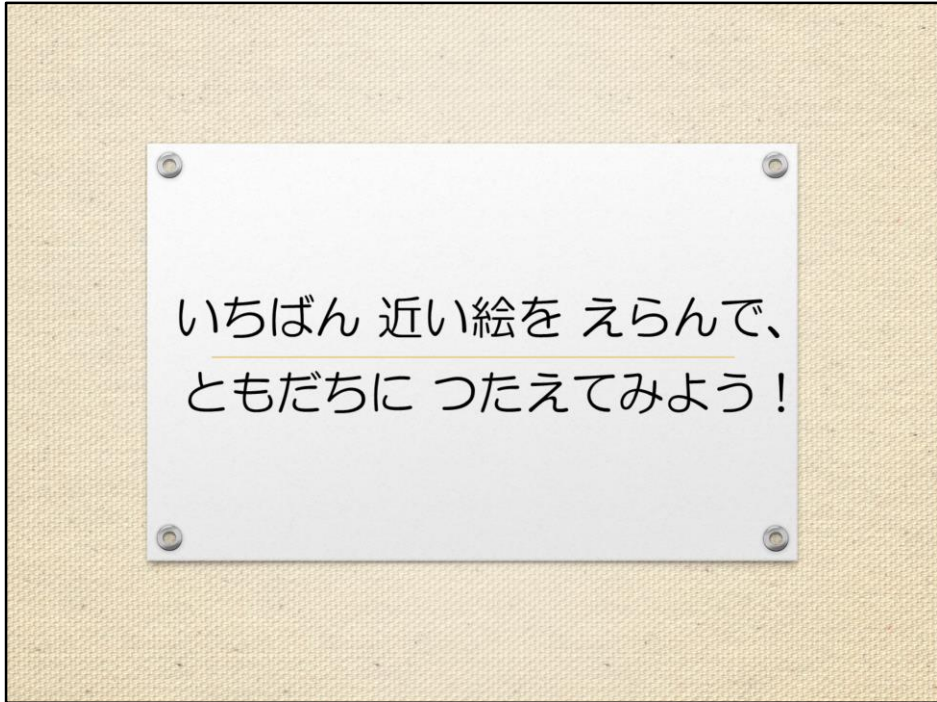


ステップ1

1 今の気持ちを振り返り、その気持ちを友達に伝えてみよう。

(留意点)

・新型コロナウイルス感染症にともない、今までとは違う制限された学校生活や家庭生活について考えることを伝える。



ステップ1

(留意点)

- ・ 6枚の絵の中から、今の自分の気持ちに一番近い絵を選ぶ。
- ・ どうしてその絵を選んだのかを友達に伝えることをおさえて、理由を考えさせる。
- ・ 今の自分の気持ちに当てはまらない場合は、新型コロナウイルス感染症について、印象に残っている出来事をもとに考えさせる。
- ・ 「どの絵を選んでもよいこと」「どんな気持ちでも間違いではないこと」を伝える。



ステップ1

(留意点)

・気持ちカードは、6枚あるので、それぞれのカードの特徴を簡単に説明する。

「はあ～」・・・ため息をついて、元気のない様子

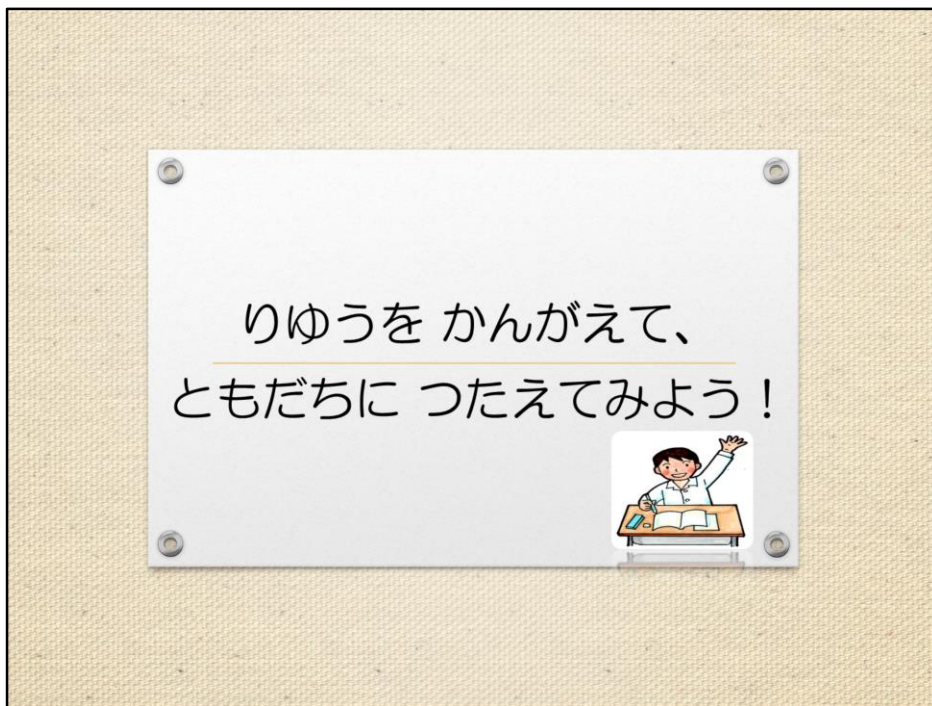
「びくびく」・・・不安な顔で、おびえた様子

「ぐすん」・・・涙を流して、つらい様子

「ムカつくー」・・・怒った顔で、いらいらした様子

「すっきり」・・・すっきり笑顔で、リラックスした様子

「しょんぼり」・・・元気がない顔で、しずんだ様子



ステップ1

(留意点)

- ・授業者は、児童の発表を共感的にとらえて、気持ちを受け止める。

(予想される児童の反応)

「はあ～を選びました。理由は、運動会や音楽会がなくなったからです。」

「ムカつく～を選びました。理由は、自由に旅行をしたり、移動をしたりできないからです。」

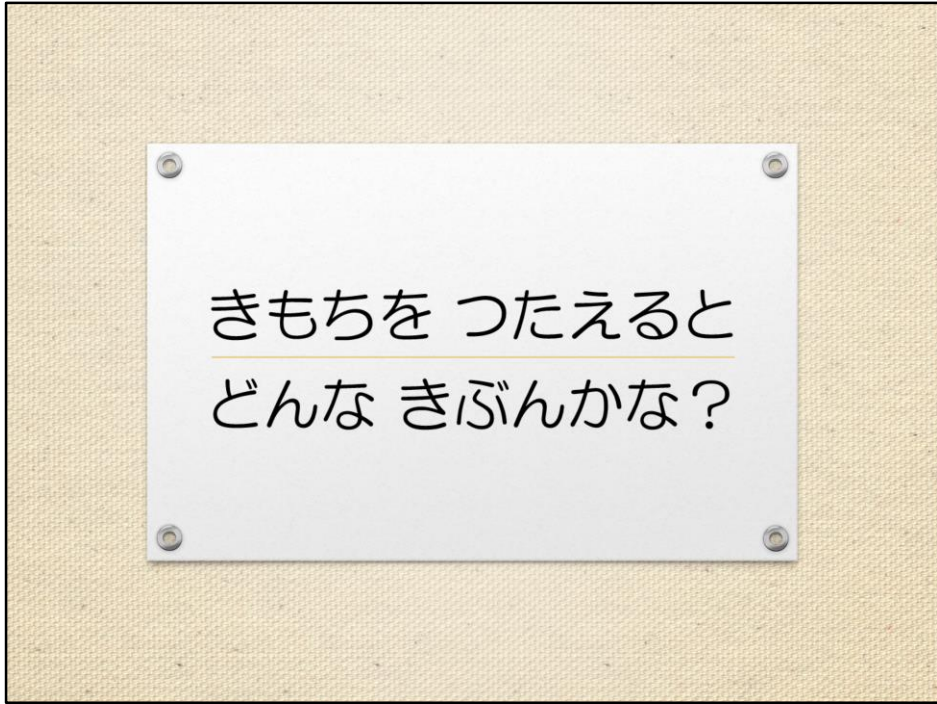
「びくびくを選びました。理由は、コロナウイルスにかかるのが怖いからです。」

「すっきりを選びました。理由は、毎日元気に学校に登校できているからです。」

「ぐすんを選びました。理由は、毎日マスクをつけないといけないからです。」

「しょんぼりを選びました。理由は、家族や友達がコロナウイルスにかからないか心配だからです。」

- ・人の気持ちは、それぞれ違って、その理由も違うことを押さえる。



ステップ1

(留意点)

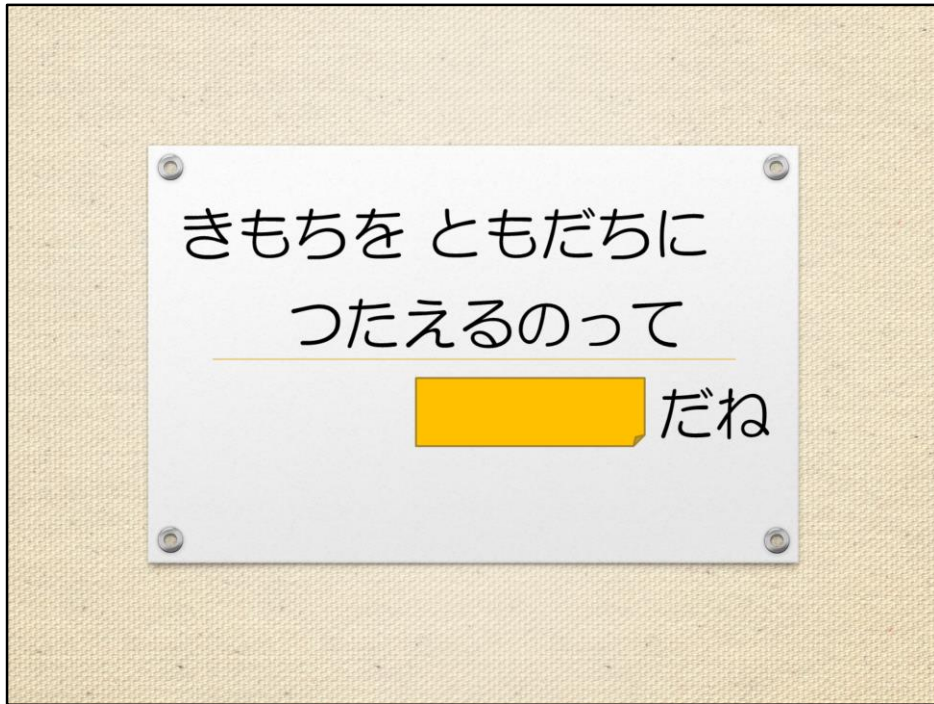
・自分の気持ちを友達に伝える（分かってもらう）とどうだったかを質問する。

(予想させる児童の反応)

「しょんぼり → しずんだ気持ち気分が少しすっきりした」

「ムカつく → イライラした気持ちが少しやわらいだ」

「びくびく → 心配しているのは、自分だけではないことが分かつた」



ステップ1

(留意点)

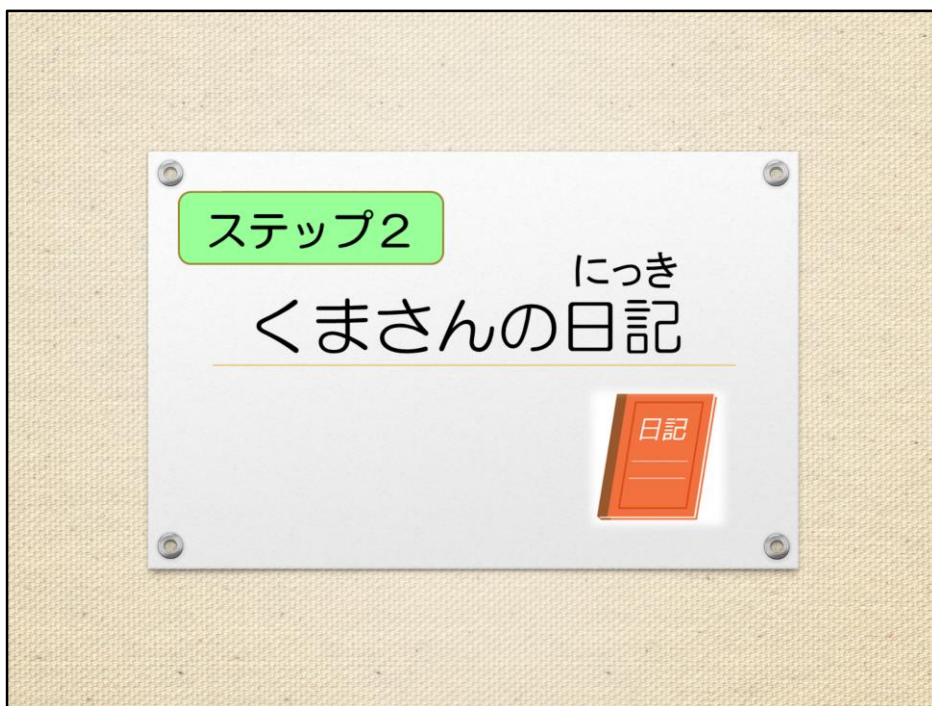
- ・自分の気持ちを友達に伝えることのよさをおさえる。
- ・実際に友達に伝えてみて、どんな気持ちになったのかを児童の言葉で発表させる。

(予想される児童の反応)

- 「とても気持ちがいいね」
- 「すっきりするね」
- 「気持ちが楽になるね」
- 「うれしさが増えるね」
- 「ちょっと勇気があるね」
- 「ちょっとはずかしいね」

(留意点)

- ・授業者は、児童1人1人の発表を共感的に受け止め、コメントを加える。



ステップ2

2 コロナウイルスに関わる出来事について「くまさんの日記」をもとに考える。

〇月〇日 なまえ（ く ま ）

きのう、わたしは
やすみじかんに きょうしつで
ゴホゴホ と せきを しました。

そのとき きつねさんが
わたしを みなから
「くまさん コロナとちがう？ こわい！」
と 大きなこえで いいました。

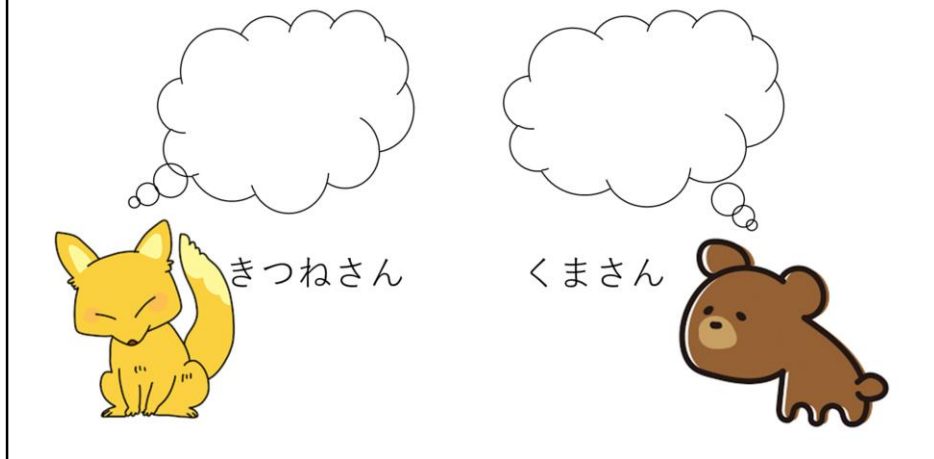
わたしは かなしくて ないてしまいました。

ステップ2

（留意点）

- ・「くまさんの日記」をもとに学習することを伝えて、黒板に日記を示し、授業者が読み上げる。
- ・実際にクラス等で同じ経験をしたという子どもがいた場合は、日記の内容をもとにその時の気持ちを一緒に考えることを確認する。
- ・コロナいじめの被害と加害になった児童に対しては、十分に配慮を行い、事実を確認して個別に対応を行う。

くまさん、きつねさんは、
どんな気持ちかな？



ステップ2

(留意点)

・児童がそれぞれの立場になって考えられるよう、「くまさんはなぜ泣いたのだろう」「きつねさんはなぜそういったのだろう」等のように発問する。

・くまさんのつらい気持ちがわかるように、役割演技（ロールプレイ）を行いそれぞれの立場になって、その時の気持ちを考える。

「きつねさん：教師」 いじめの加害者

「くまさん：児童」 いじめの被害者

※教師がきつね役になり、児童には「くまさん、コロナとちがう？こわい」と言われた時の気持ちを考えさせる。

・きつねの気持ち、くまの気持ちをしっかりと考えさせることで、次の活動の言葉かけにつなげるようにする。

【くまさん】

- ・せきをしただけで、「コロナ」と言われてかなしい。
- ・みんなに聞こえるように大きな声で言われて、腹が立つ。（つらい）

い）

- ・「コロナ」にかかっていないのに、決めつけられてつらい。（腹が立つ）

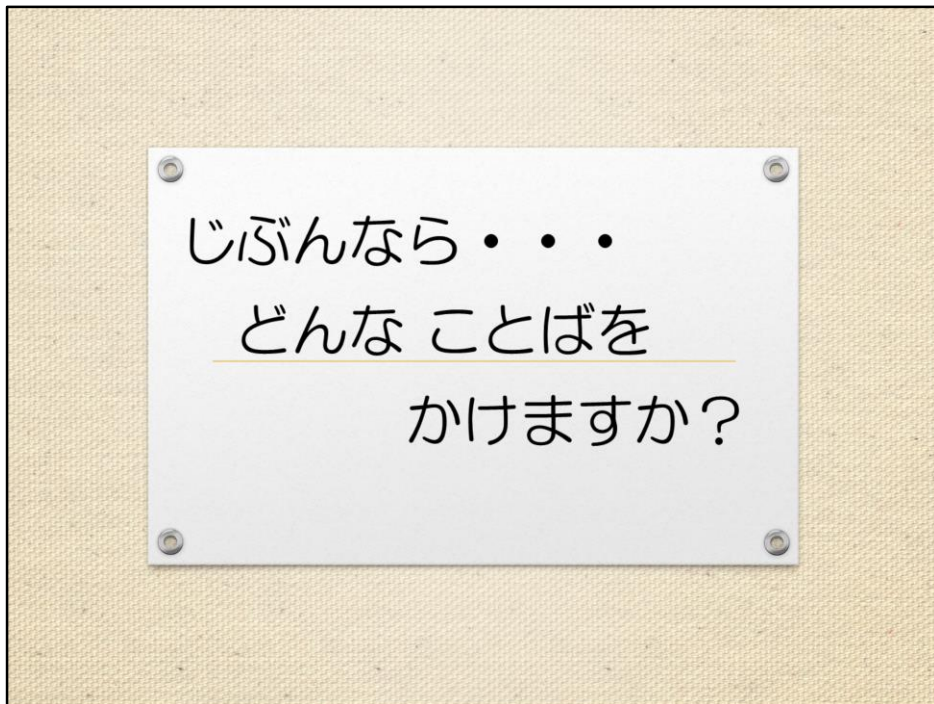
立っ）

- ・もう明日から学校に来たくない。 など

【きつねさん】

- ・せきをするなら、マスクをしてほしい。
- ・せきをしたので、ふざけて「コロナ」と言った。
- ・「コロナ」はうつると聞いたので、いやな感じがしたので言った。

など



ステップ2

(留意点)

- ・くまさん、きつねさんの気持ちをとらえた上で、自分ならどんな言葉をかけるかを考える。
- ・くまさん、きつねさんのどちらへ言葉をかけても構わないことを伝える。
- ・授業者は、児童の発表1つ1つを共感的に受け止め、コメントを加える。
- ・コロナ感染のリスクを避けたい気持ちや感染することへの恐れは、否定せず、共感的に受け止める。

(予想される児童の反応)

【くまさんに対して】

- ・くまさん、泣かないで元気を出して。これからも一緒に遊ぼうね。
- ・せきをただけで、コロナではないことは分かっているよ。
- ・「コロナ」と言われても、気にしないで。

【きつねさんに対して】

- ・せきをただけで「コロナ」と決めつけるのはよくないよ。
- ・みんな「コロナ」はこわいけど、自分が言われていやなことはやめようね。
- ・これからもみんな仲よくしたいから、くまさんにあやまろうね。

※きつねさんに対して、責める言葉をかけて、逆にきつねさんがいじめの被害者にならないように留意する。

ステップ3

きょうのがくしゅうを
ふりかえって

ステップ3

3 今日の学習を通して、気付いたことや思ったことを感想として書いて発表する。

(留意点)

- ・児童の発表に対して、「そうだったね」「そのように気づくことができたんだね」等、共感的に受け止めながら全体で共有できるようにする。
- ・新型コロナウイルス感染症に対して、誰もが不安や恐怖心があるのは当たり前のことだということを伝える。
- ・これから学校生活を送る中で、何か心配事があれば担任や養護教諭に相談できることを伝える。

(予想される児童の反応)

- ・ふざけて「コロナ」と言ったら、つらい思いをすることが分かったので、気を付けようと思った。
- ・せきをしているだけで「コロナ」と決めつけるのは、よくないと思った。
- ・コロナウイルスでつらい思いや苦しい思いをしている人がいるかもしれないので、相手の気持ちを考えて声をかけてあげたい。



(留意点)

・エピソードを紹介し、励まされた人がうれしい気持ちになり、元気になれる「優しい気持ち」が実際にあったことを紹介して授業を終わる。

〔エピソード〕

今年の4月、ある保育園の先生が新型コロナウイルスに感染しました。

その保育園はその日からしばらくの間、休みとなりました。

保育園が休みの間も、先生方は、保育園の消毒を毎日行い、1日も早く再開できることを願っていました。

園長先生は、毎朝一番に保育園に行き、心配な気持ちで過ごしていました。

ある日、園長先生が保育園に入ろうとした時、「がんばれ〇〇保育園」と書いてある旗に気がつきました。

その旗は、心やさしい誰かが保育園を応援するために作ってくれたのです。

その旗を見て、園長先生は、うれしい気持ちでいっぱいになり、なみだを流して喜びました。